

衆議院環境委員会ニュース

平成 26.11.7 第 187 回国会第 6 号

11 月 7 日（金）、第 6 回の委員会が開かれました。

1 環境の基本施策に関する件

- ・望月環境大臣（原子力防災担当大臣）、小里環境副大臣、あかま総務大臣政務官、高橋環境大臣政務官、石川内閣府大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

井上 貴博君（自民）

- ・廃炉等の原子力問題に対し、安全性を確保した上で将来にわたり対応していくためには、若者や技術者等の人材の確保が必要であると考えているが、今後の取組と決意を望月環境大臣に伺いたい。
- ・「人と動物が幸せに暮らす社会の実現プロジェクト」における福岡市のモデル事業について、具体的な取組内容を伺いたい。
- ・ペットの殺処分を減らすための施策とその決意について望月環境大臣に伺いたい。

赤枝 恒雄君（自民）

- ・ペットの悪質なブリーダー・取扱業者に対する規制の状況について環境省に伺いたい。
- ・「人と動物が幸せに暮らす社会の実現プロジェクト」の目標及びその進捗状況について環境省に伺いたい。
- ・動物愛護施策を強力に進めていくことについての高橋環境大臣政務官の決意を伺いたい。

吉田 泉君（民主）

- ・学校の校庭等の除染により生じた汚染土壌については、放射性物質汚染対処特別措置法の施行前に生じたものであっても中間貯蔵施設への搬入の対象とする必要があると考えるが、望月環境大臣の見解を伺いたい。
- ・慎重な対応が求められる中間貯蔵施設に搬入された汚染土壌の再生利用に当たっての課題について、望月環境大臣の見解を伺いたい。

福田 昭夫君（民主）

- ・指定廃棄物の最終処分場として、福島県富岡町の避難指示解除準備区域内にある民間の管理型最終処分場を選定した理由について、小里環境副大臣に伺いたい。
- ・宮城県議会の最大会派である自由民主党・県民会議が、

指定廃棄物を福島県に集約するよう政府に対して要望しようとしていることについて、小里環境副大臣に伺いたい。

河野 正美君（維新）

- ・小笠原諸島及び伊豆諸島周辺海域における中国漁船によるサンゴの密漁問題に関し、サンゴの被害状況、密漁の実態及び政府の対応方針について伺いたい。
- ・九州地区で予定されている環境カウンセラー研修において、原子力に偏った研修が行われる予定と聞いているが、今回の研修内容策定に至った経緯を伺いたい。

新原 秀人君（維新）

- ・原子炉に関する計測値を蓄積する過渡現象記録装置について、平成 23 年 5 月に東京電力が福島第一原発事故時のデータを旧原子力安全・保安院に報告し、公表したが、福島の事故以前の異常発生時にも報告されていたのか、原子力規制委員会に伺いたい。
- ・新規規制基準における基準地震動は平均値であり、直下型地震は想定されていないとの指摘があるが、九州電力川内原子力発電所（以下「川内原発」という。）における基準地震動についてはどのように考えているのか、原子力規制委員会の見解を伺いたい。

田沼 隆志君（次世代）

- ・小笠原諸島及び伊豆諸島周辺海域における中国漁船によるサンゴの密漁問題について、政府は懸念表明に留まらず毅然とした態度で臨むべきと考えるが見解を伺いたい。併せて、望月環境大臣の見解を伺いたい。
- ・再生可能エネルギー固定価格買取制度は開始からわずか 2 年で破綻との声もあるが、今後の制度設計の方向性について資源エネルギー庁に伺いたい。

野 間 健君（無）

- ・川内原発の再稼働に関連し、国は、鹿児島県の防災訓練を積極的に支援する必要がある。また、避難路の整備には財政支援が必要であり、地元自治体と定期的で緊密な連携を図っていく必要があると考えるが、望月原子力防災担当大臣の見解を伺いたい。
- ・海岸漂着物対策について来年度以降も事業を継続していく必要があると考えるが、環境省の見解を伺いたい。また、中国及び韓国由来の漂着物が多い点に鑑み、両国に対し発生を抑制するよう働きかける必要があるが、望月環境大臣の所見を伺いたい。